2025 年 1 月 1 日

説教「新しい事をしてくださる主」

イザヤ書 43 章 14～21 節

2025 年の元旦礼拝です。今朝は預言者イザヤによるイザヤ書から、新年のメッセージをいただいてまいりたいと思います。43 章は、信仰に基づいて歩んでいたヒゼキヤ王の時代です。アッシリヤ帝国が紀元前 721 年にイスラエルのサマリヤを陥落、エルサレムも危うい状況になっていました。

１．神の民を守られる主（14～15 節）

①贖われた方（14）**「あなたがたを贖われたイスラエルの聖なる方、主はこう仰せられる。『あなたがたのために、わたしはバビロンに使いを送り、彼らの横木をみな突き落とし、カルデヤ人を喜び歌っている船から突き落とす。』」**

１節に「恐れるな。わたしがあなたを贖ったのだ。」とありますが、その主は聖なる方として彼らを導き、仰せられたのです。ここではバビロンとありますが、ユダを陥落させるバビロン帝国はまだ出現しておらず、アッシリヤをおびやかしている状態でありました。ですから、これを預言の言葉とも読めます。そのバビロンに使いを送って、横木（かんぬき）を引き下ろし、チグリス・ユーフラテス川の下流地域であるカルデヤの人々が歓声をあげている船の中から引き落とすというのです。

②創造主であり王である方（15）**「わたしは主、あなたがたの聖なる者、イスラエルの創造者、あなたがたの王である。』」**

聖なる主は御自分について明らにしてくださっています。つまり、主は創造主であり、イスラエルおよびユダの民にとっての真の王なる方であると宣言してくださっているのです。

２．出エジプトのように（16～18 節）

①水の中に通り道を（16）**「海の中に道を、激しく流れる水の中に通り道を設け、」**

創造主である方は、海の中に道をつくってくださり、激しく流れる水の中に通り道を設けてくださる、と言われます。出エジプトの出来事が思い出されます。パロを先頭にするエジプト軍に追われ、ついには目の前に海がたちふさがった時に、主なる神は海を二つに分けて通り道をつくってくださいました。それと同じように、バビロンの攻撃にも主は道を開いてくださるというのです。

②燈心のように消える（17）**「戦車と馬、強力な軍勢を連れ出した主はこう仰せられる。『彼らはみな倒れて起き上がれず、燈心のように消える。』」**

あの出エジプトの時もそうでした。追うエジプト軍に戦車や馬、強力

な軍がイスラエルに迫っていました。しかし、主は仰せられます。主は、彼らをみな倒れて起き上がれず、燈心の火を消すように、消滅させてしまうというのです。

③昔の事どもを考えるな（18）**「『先の事どもを思い出すな。昔の事どもを考えるな。』」**

主は民に先立って導き、さらに仰せられるのです。『先の事ども、昔の事どもを思い出したり、考えたりするなというのです。それは、人間の考えることを越えて出エジプトをさせてくださった、聖なる創造主への信頼を促しているのです。

３．新しい事を神の民のために（19～21 節）

①荒野に道を、荒地に川を（19）**「『見よ。わたしは新しい事をする。今、もうそれが起ころうとしている。あなたがたは、それを知らないのか。確かに、わたしは荒野に道を、荒地に川を設ける。』」**

そして、聖なる神は言われるのです。『見よ、わたしは新しい事をする。』「新しい事」については、42:9 でも出てきました。それは、人の知らない、理解を越えた大いなること（エレミヤ 33:3）です。それが今、困難な民の上に起ころうとしているのです。『荒野に道が、荒地に川が』といった恵みに満ちた新しい事が起きるのです。

②ジャッカルやだちょうも（20）**「『野の獣、ジャッカルや、だちょうも、わたしをあがめる。わたしが荒野に水をわき出させ、荒地に川を流し、わたしの民、わたしの選んだ者に飲ませるからだ。』」**

第一義的には主が選んでくださった、神の民に恵みが注がれます。それは荒野に水が湧くような、渇いた荒地に川が流されといった、渇いた者達に喜びと希望、生きる力をもたらす恵みです。その結果、野の獣、ジャッカル、だちょうたちも、恵みが分かたれて、主をあがめるようになるというのです。

③主の栄誉を宣べ伝え（21）**「『わたしのために造ったこの民は、わたしの栄誉を宣べ伝えよう。』」**

主はその民を造り、導いてくださいました。そして、困難にある民が喘いでいるのを、見放すことなく、必要のすべてを与えてくださるのです。その結果、神の民も主の御名をほめたたえ、主を宣べ伝えるのです。

《結論》

2025 年の元旦礼拝。この朝も御言葉から学ぶことを通して、新しい年を歩み出していく力をいただいてまいりたいと思います。

今朝学んでいるイザヤ書は、「だが、今ヤコブよ」（43:1）と呼びかけられているように、イスラエルの民に向けて語られています。その中にはメシヤ預言が多くあることは、待降節や降誕節で学んだとおりです。

今朝の聖書箇所から、一点に絞って学んでいきたいと思います。それは、「見よ。わたしは新しい事をする。今、もうそれが起ころうとしている」（19 節）というお言葉です。このお言葉が語られている背景には、イスラエルとユダヤの民に覆いかぶさっている大きな問題がありました。紀元前 721 年にはイスラエルの都であるサマリヤが陥落。その後も、アッシリヤの攻勢は続きました。そして、この後、バビロン帝国によって紀元前 586 年には、ユダヤの地まで陥落することになり、神の民は試練続きでありました。「あなたがたの会った試練はみな人の知らないものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを、耐えられないほどの試練に会わせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えてくださいます。」（Ｉコリント 10:13）とありますが、ここには神の民にも試練があることが語られています。イスラエルの民にとっても、クリスチャンにとっても試練はあるのです。パウロは耐えられない試練はないことと、脱出の道があることを教えていますが、イザヤ書ではこの試練のなかにあって、「新しい事が起こされる」ことが約束されています。それは、「目が見たことのないもの、耳で聞いたことがないもの、人の心に思いうかんだことのないもの」（Ｉコリント 2:9）なのです。ここでは、荒野に道や水を、荒地に川を流すという幻が添えられています。苦しい民に潤いと力がもたらされるという励ましでもあります。

今、この御言葉を受けた者たちには、「新しい事が起こされること」を「信じること」、「待望すること」が促されています。

私共の家の和室にこの御言葉が記された掛け軸がかかっています。妻の父親にこの御言葉を書いてもらったのですが、それをかけたのは 2002 年ぐらいだっ たと思います。それから、4～5 年ぐらいの間に、いろいろなことがあった末に、現在の会堂建設へと導かれていきました。試練がありましたが、それを越えて新しい事が起こされていったのです。

今日、私たちの教会にも試練があります。また、ここに集う人々のうちにも試練はあります。しかし、この年を始めるにあたって、「新しい事が起こされる」と信じていこうではありませんか。そして、それは人間の力ではなく、創造主なる神の聖なる御業としてなされていくのです。新しい事が起こされることを待つ間に、わたくしたちは何をするのでしょう。やはり、礼拝をささげ続けていくことです。今年も主日礼拝が喜ばしくささげつつ、主の大いなるみわざに期待していきましょう。